

大阪居住年数によって 大阪人に対するイメージは変化するのか？

今北賢治

1. はじめに

ある一つの物事に対してでさえ、人によってそのイメージは全く違う。時には正反対のこともあるくらいだ。なぜこのような違いが生まれるのかというと、それは情報の仕入れ方・捉え方の違いによるところが大きいと考えられる。すなわち、人は他人から伝聞したりメディアを見たりすることによって情報を仕入れるわけであるが、各人の人脈や持っているメディアによって入ってくる情報の量・種類は違ってくるし、各人が持っている知識の枠組みなどによって情報の捉え方は変化していくのだ。

さて、今回（2007 年度）の社会学調査実習の授業では「大阪人のイメージ」について調べることになった。アンケート調査用紙は大阪教育大学・筑波大学・中部大学・富山大学の四大学にて配布・回収した。

2. 問い

大阪に住んでいる人と住んでいない人、また大阪に長く住んでいる人と最近住み始めた人とは、普段接している人・物に大きな違いがあると考えられる。これらの違いから大阪人に対するイメージが変化していく可能性があるのではないかと私は考えた。そこで、以下のような問いについて考えることで、大阪居住年数の違いによる大阪人に対するイメージの変化の有無を検証していきたい。

【問い】

- ①大阪居住年数の違いによって、大阪人に対するイメージも変化していくのではないか。
- ②もしそうであるならば、どのようなイメージに大きな違いが見られるのか。

この問いが正しいかどうかを証明するためには、アンケートの質問項目のうち、「大阪居住年数」と「大阪人に対するイメージ」とのクロス集計をとり、その相関関係を見てやれば良い。以下、このことについて検証・考察を行う。

3. 問いの検証方法

まず、上記の問いに対する検証の仕方を確認しておこう。今回のアンケート調査では様々な質問項目を設けたが、本レポートではその中でも特に、「大阪居住年数」と「大阪に対する様々なイメージ（本アンケート調査では 10 項目）」とのクロス集計をとりあげて考える。この二項目間に相関関係があるかどうかを確かめれば良いのである。ちなみに、グラフでは見やすさを考慮して度数は省略した。また「大阪居住年数 0 年」「大阪居住年数 1-10 年」「大阪居住年数 11 年以上」「全体」のそれぞれにおいて合計パーセンテージが 100%になるように設定してあるので、各々の傾向を読み取ることができるようになっている。

4. 問いの検証

まずは、「大阪居住年数」に関するグラフを見てもらいたい。(→図①) 断っておくと、アンケート用紙では大阪居住年数の具体的な数字を書き込む形式になっていたの、見やすくするために「0年」「1-10年」「11年以上」で区切ってまとめたものが図①になる。この図を見ると、「大阪居住年数0年」の人が多いことがわかる。これは、アンケート用紙を配布・回収した四大学のうち三大学が、大阪以外の地域にある学校だったためと考えられる。少し「大阪居住年数0年」の人への偏りが大きい、問いを検証するにあたって特に支障はないだろう。

では、本題である問いの検証に移ろう。「大阪居住年数」と大阪に対するイメージ10項目とのクロス集計を取ると以下ようになった。(→図②～⑪) 大阪居住年数によるイメージの違いが見られたのは、「エンタの神様が好き」(→図③)・「初対面の人と話すのが苦手」(→図⑥)・「信号が青になる前に渡りはじめる」(→図⑦)・「買い物をするときよく値切る」(→図⑨)・「下ネタが好き」(→図⑩)の5項目である。その他の5項目については大阪居住年数に関係なく、ほぼ同様の傾向が見られた。

ただ、「大阪居住年数1-10年」の人たちと「大阪居住経験11年以上」の人たちの間には、全体を通じてそれほど大きな傾向の違いは見られない。よって、大阪人に対するイメージの違いは「大阪居住年数」というよりも「大阪居住経験」によって生まれると言えそうである。

【問いの検証】

①大阪人に対するイメージの違いを生み出すのは、「大阪居住年数の違い」ではなく「大阪居住経験の有無」である。

②10項目のうち5項目で「大阪居住経験」によるイメージの違いが見られた。

4. 考察

大阪居住経験によるイメージの違いが見られた5項目について、それぞれ考察してみよう。

A) 「エンタの神様が好き」について

グラフを見ると、「大阪人は『エンタの神様』が好きである」と思っている人の割合は、大阪居住年数が長くなるごとに少なくなっていることがわかる。「大阪居住0年」の人々は「5～6割の大阪人が『エンタの神様』が好き」と考える傾向があるのに対し、「大阪居住1～10年」の人々は「2～4割の大阪人が『エンタの神様』が好き」と考える傾向にあり、「大阪居住11年以上」の人々にいたっては「1割以下の大阪人しか『エンタの神様』は好きでない」と考える傾向にあるのだ。

大阪居住経験のある人は「大阪人は笑いに厳しい」と思っているが、他の地域の人たちは特別そう思っているわけではない。

B) 「初対面の人と話すのが苦手」について

大阪居住経験がある人は「2～4割の大阪人が初対面の人と話すのが苦手」と考える傾向にあるが、大阪居住経験のない人は「初対面の人と話すのが苦手な大阪人は1割以下である」と考える傾向にあることが読み取れる。大阪居住経験のない人はある人よりも、「大阪人は誰とでも気楽に話せる」と思っているようである。

大阪居住経験のある人は「大阪人はそれなりに人見知りである」と思っているが、他の地域の人たちは「大阪人はあまり人見知りでない」と思っている。

C) 「信号が青になる前に渡りはじめる」について

これもよく言われる大阪人のイメージである。大阪居住経験のある人は「7～8割の大阪人が信号が青になる前に渡りはじめる」と考える傾向にあるが、大阪居住経験のない人には、それほど強い傾向は見られない。

「大阪人は信号を守らない」というイメージは、「大阪居住経験のある人」に限られる。

D) 「買い物をするときよく値切る」について

大阪居住経験のある人たちは「2～4割の大阪人はよく値切る」と考える傾向にあることがグラフから読み取れるが、大阪居住経験のない人たちからはそれほど強い傾向は見られない。このイメージも大阪居住経験のある人限定のようである。

「買い物をするときよく値切る」というイメージは、「大阪居住経験のある人」に限られる。

E) 「下ネタが好き」について

大阪居住経験のある人たちは「5～6割の大阪人が、下ネタが好きだ」と考える傾向にあるのに対し、大阪居住経験のない人たちは「下ネタが好きな大阪人は2～4割くらいである」と考える傾向にあることが、グラフから読み取れる。ちなみに、大阪人が本当に下ネタが好きかどうかは定かでない。

大阪居住経験のある人たちは、大阪居住経験のない人たちに比べて、「大阪人は下ネタが好きだ」と思う傾向にある。

5. まとめ

大阪居住経験がある人となない人で違いが出たイメージに着目して考えると、次のことが言える。

【大阪居住経験のある人の大阪人に対するイメージ】

①笑いに厳しい ②それなりに人見知り ③信号を守らない ④よく値切る ⑤下ネタ好き



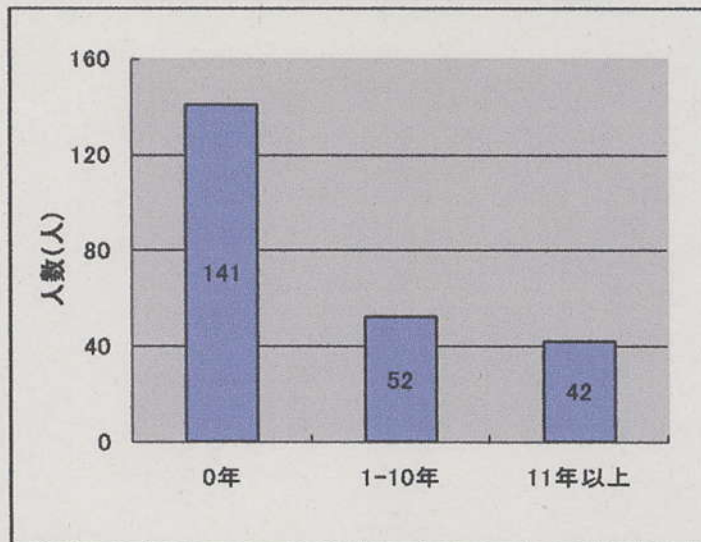
【大阪居住経験がない人の大阪人に対するイメージ】

①笑いの厳しさは普通 ②人見知りでない ③× ④× ⑤それほど下ネタ好きではない

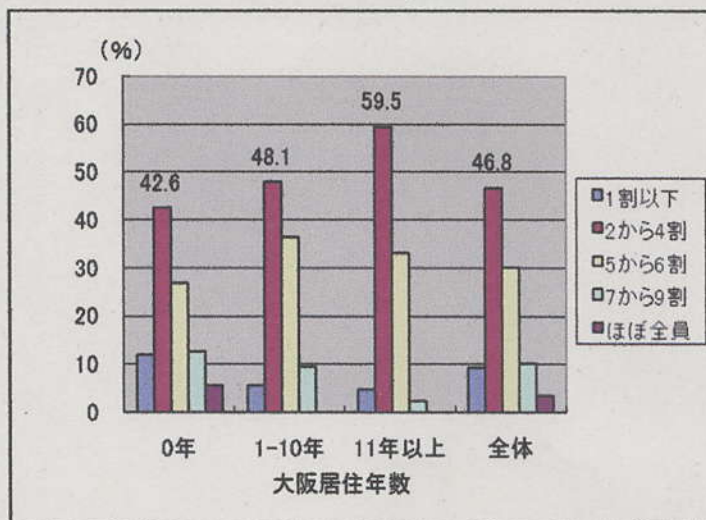
本アンケート調査のみでは上の傾向が正しいとは一概には言い切れないが、大阪居住経験によってある程度のイメージの差が生まれるということは言えるであろう。また、最近では「県民性」を題材にしたテレビ番組も放映されているので、今調べると、また違った傾向が出るかもしれない。

それにしても、イメージというものは怖い。本アンケートでは大阪人の実際については調べていないので、どちらのイメージが正しいかということとはわからないが、イメージによって人を見ればそれは差別にもつながる。私たちはできるだけ先入観を排除して人と接しなければならないのである。

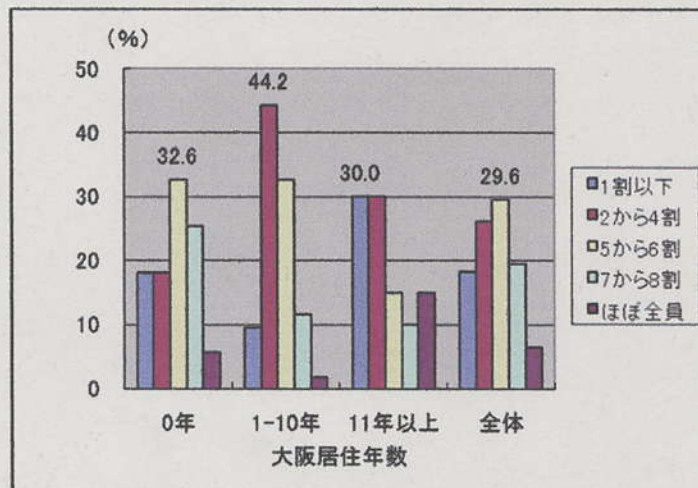
図① 大阪居住年数による人数区分



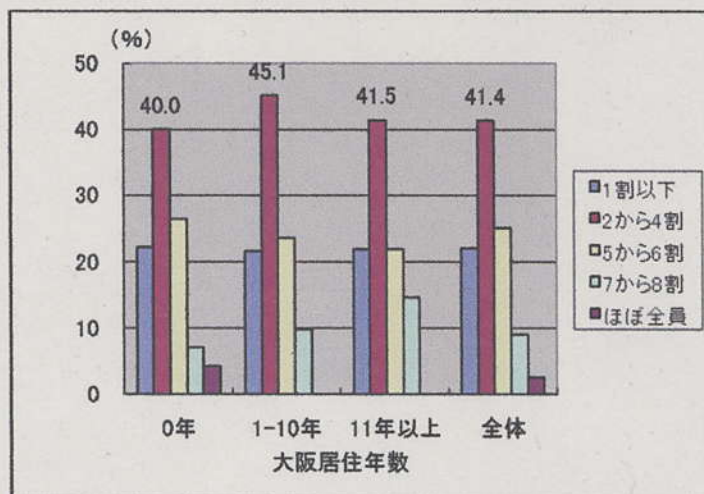
図②「大阪居住年数」と「納豆が嫌い」とのクロス集計



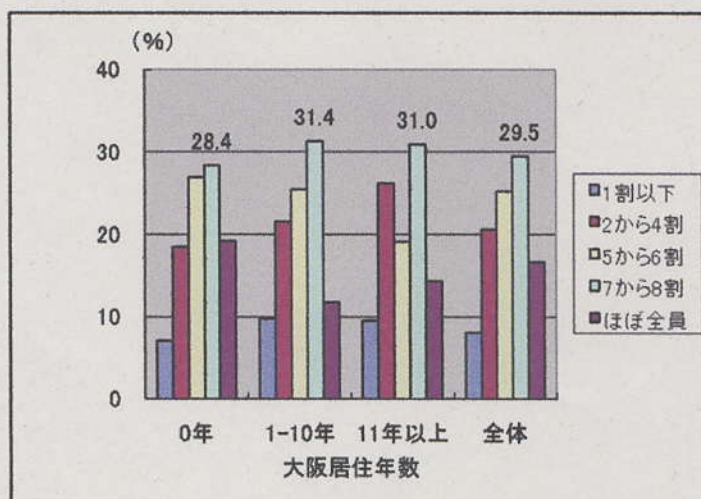
図③「大阪居住年数」と「エンタの神様が好き」とのクロス集計



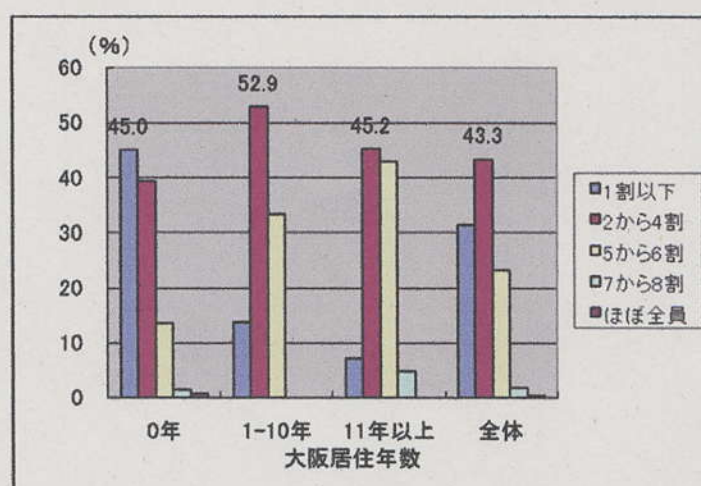
図④「大阪居住年数」と「飲みに行ったときおごってくれる」とのクロス集計



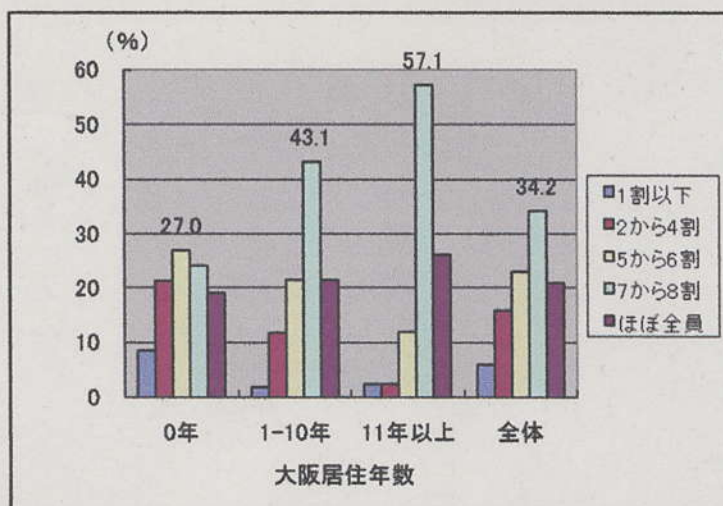
図⑤「大阪居住年数」と「お好み焼きをおかずにご飯を食べる」とのクロス集計



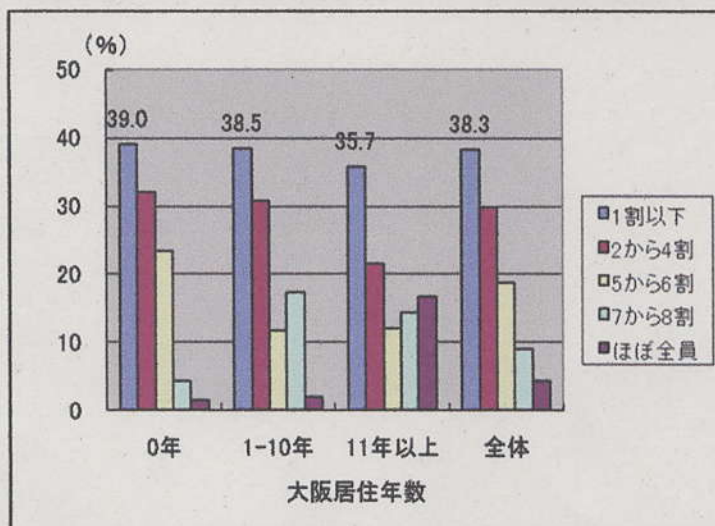
図⑥「大阪居住年数」と「初対面の人と話すのが苦手」とのクロス集計



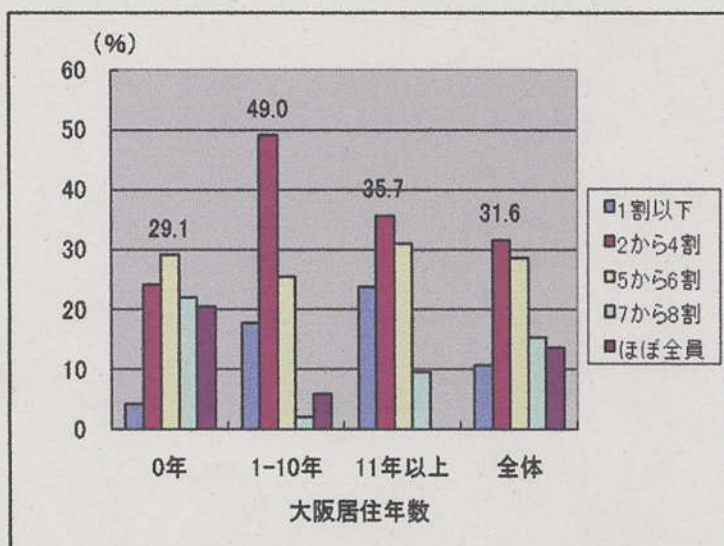
図⑦「大阪居住年数」と「信号が青になる前に渡りはじめる」とのクロス集計



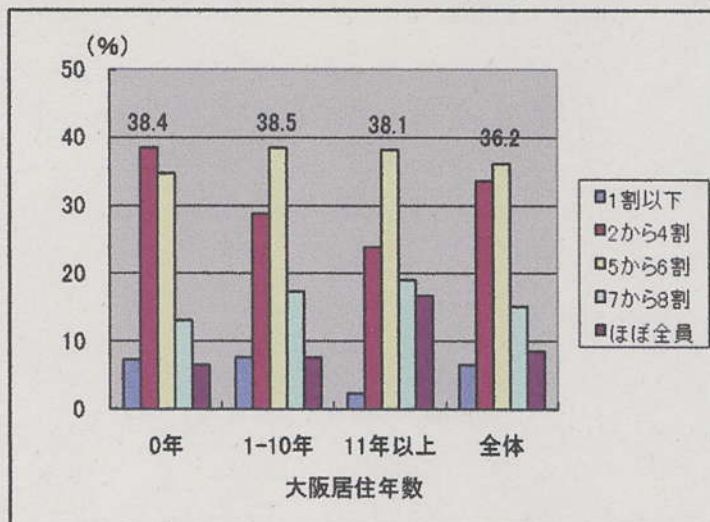
図⑧「大阪居住年数」と「関西弁を話さない人に冷たい態度をとる」とのクロス集計



図⑨「大阪居住年数」と「買い物をするときよく値切る」とのクロス集計



図⑩「大阪居住年数」と「下ネタが好き」とのクロス集計



図⑪「大阪居住年数」と「断りなく人の筆記用具を使う」とのクロス集計

